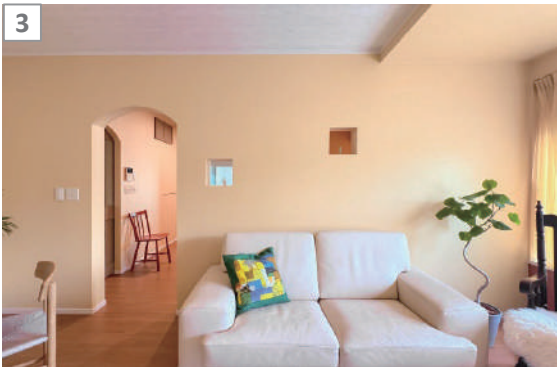
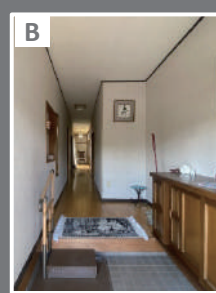
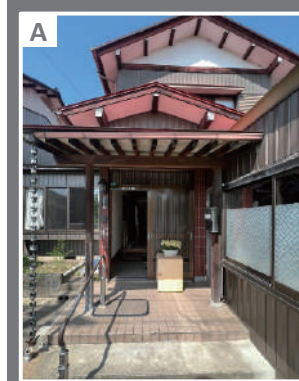


ローコストで最小限の改修であるが、色彩計画をしっかりと行うことにより外装、内装を整え、昭和中期の趣をそのままに豊かな住まいが生まれた。室内は間取りを大きく変えることなく、多目的使用も視野に入れた優しく明るい色合いで見事に一新された。

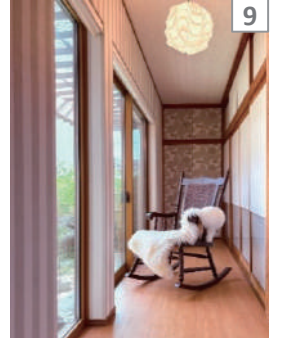
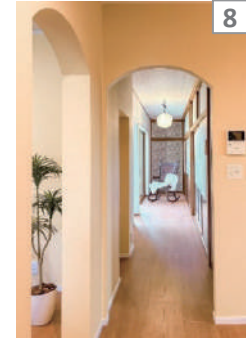
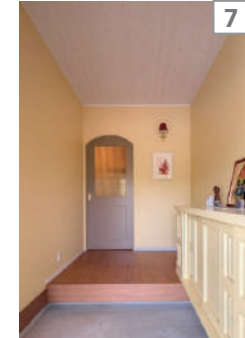
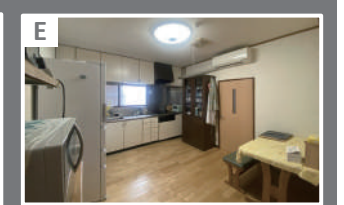
リフォーム前後の写真



お父様の想いのロッキングチェアで本を読む施主。黄色を基調にグリーンを効かせた室内は、明るく心地よい北欧テイストで構成。空間の彩りとともに、施主の時間の質も大きく変化した。

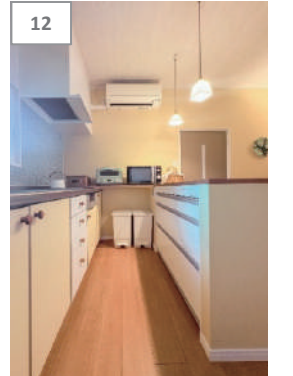
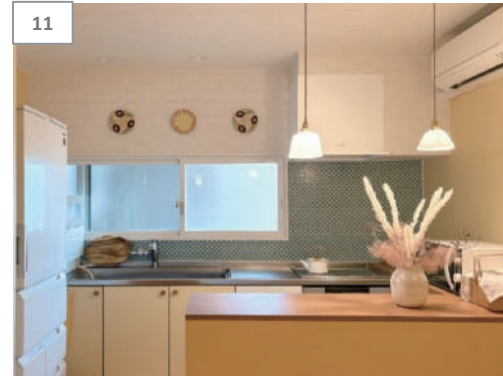


Before



色彩計画による塗装で外観を刷新。最小限の改修で建築の新たな価値を創出。

既存の下足入れを壁と同じ色で塗装し温かく迎え入れる玄関にリファイン。廊下2か所に引き戸を設け、機能的でリズム感のあるゾーニングとプライベート空間を確保。



緩やかにつながるゾーニングで安心感を持たせつつ多目的な活用を想定。既存キッチンにL字カウンターを増設し、下部に収納を設置。扉にはシートを貼り、機能性と美観を向上。

リフォームの動機／設計・施工の工夫点／施主の感想・満足度／住宅の価値を向上させた内容など

言語聴覚士である施主は、コロナ禍やお父様の看取りを経て、失語症の方々と安心して集える場所を「自宅で実現したい」と考えるようになった。お母様のためのバリアフリー改修と同時に、家の役割を改めて見つめ直し、暮らしとケアが無理なく交わるやさしい住まいづくりを目指した。

【工夫点】▶家の正面に広がる公園との関係性に着目し、街並みに価値を生み出す意匠を重視。昭和中期の趣はそのまま、外壁・サッシ・雨戸などを塗装で整え、北欧的なデザイン要素を取り入れることで、ローコスト

トながら印象的な外観を実現した。▶言語聴覚士としての活動や将来の多目的利用も視野に、用途や担い手が変わっても柔軟に活用できる動線と機能性を整備。▶施主の世界観とホスピタリティを反映したハウスカコーティ(=楽しい家)というコンセプトを、色や設えで表現した。

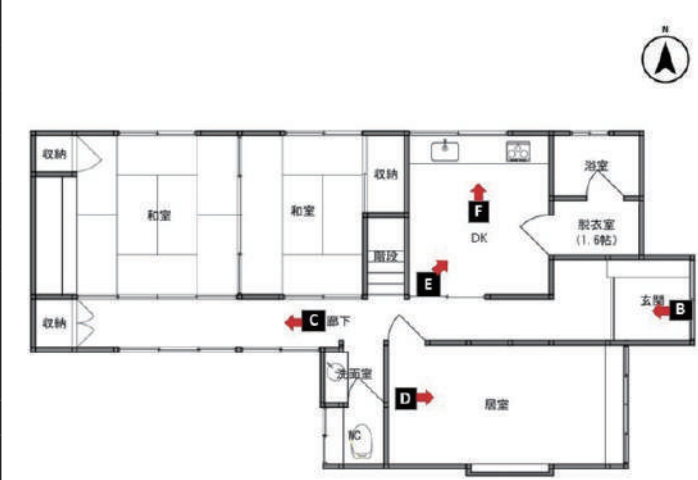
【施主の感想】『失語症カフェ』を自宅で開けるようになり、人を迎えることが喜びになりました。暮らしやすさとゆしさを兼ね備えたこの住まいで母の笑顔も増え、住環境が心に与える影響を日々実感しています。

審査基準のうち右記に該当する場合は ☒ a.ストックの有効活用 / ☐ b.深刻化する技能者不足への対応 / ☒ c.既存住宅流通・リフォーム市場の拡大・活性化

性能向上の特性	特に配慮した事項	lw 値、ls 値
温熱性能、耐震性能、バリアフリー性能	将来の用途や担い手が変わっても活用しやすい空間構成と、魅力ある外観デザインを熟慮。“愉しく温かい家”という理念を設えに込めた。	リフォーム前 リフォーム後

データ					
所在地	福井県福井市	新築竣工年	1969 年	築後年数	56 年
該当工事床面積	55㎡ / 総工事床面積	100㎡	該当部分工事費	600~1,000万円未満 / 総工事費	600~1,000万円未満
居住者構成	65 歳以上： 2 人 / 40 ~ 64 歳： 人 / 15 ~ 39 歳： 人 / 14 歳以下： 人 / ペット： 人				

リフォーム前の平面図



東面外観 A

リフォーム後の平面図



東面外観 5

リフォーム部位： ■居室/ ■台所/ □浴室/ ■便所/ ■洗面所/ ■廊下/ □階段/ ■玄関/ ■エクステリア/ □マシヨ共用部分/ ■その他